

社会保障

平成 22 年 6 月 24 日

水口 貴恵

1. はじめに
2. 社会保障の定義
3. 福祉国家 3 つのモデル
4. 日本の社会保障
5. 今後の展開
6. おわりに

1. はじめに

菅内閣が発足し「社会保障」の重要性が叫ばれている。そして、私も女性労働や経営学を学んだ結果、社会保障 (=セーフティネット) の重要性を感じた。しかし、政府の施策をただただ待つのみでは、自分の未来を政府に委ねているようで漠然とした不安を感じた。そこで、日本の社会保障の歴史や世界的に見た日本の社会保障の現状を把握することによって、今後将来を考える上での考え方の幅を広げていきたい。

2. 社会保障の定義

- ・ 社会保障：個人的リスクである、病気、けが、出産、障害、死亡、加齢、失業などの生活上の問題について貧困を予防し、貧困者を救い、生活を安定させるために国家または社会が所得移転によって所得を保障し、医療や介護などの社会サービスを給付すること、またはその制度を指す。

3. 福祉国家 3 つのモデル (図 1・2)

- ・ 福祉国家：国家の機能を安全保障や治安維持などに限定するのではなく、社会保障制度の整備を通じて国民の生活の安定を図ること。広義には財政政策や雇用政策を含める場合もある。

社会民主主義モデル

人々は失業や病気などによって仕事から離れても、各種の所得保障によって自らの生活を維持することができる。(例：スウェーデン)

保守主義モデル

所得保障は、主に男性稼得者に対して行われ、女性はあくまで男性稼得者が率いる家族の構成員であるかぎりにおいてその恩恵を受ける。また、社会保障制度は職域ごとに分かれた社会保険が中心で、国会公務員が優遇されるなど、その間の格差も大きい。

(例：ドイツ、日本)

自由主義モデル

労働市場のなかで経済能力がある市民として自立できた人々と、さまざまな理由から労働市場の外にあるいはその周辺部にとどまることを余儀なくされた人々との格差が顕著となる。(例：アメリカ)

4.日本の社会保障

日本の社会保障の歴史(図3)

メリット

- ・財源が少なくて済む
- ・老後は安心

デメリット

- ・拠り所が不安定(家族の信頼関係や企業の持続的成長等)
- ・グローバル化への適応力が低い(図4)

5.今後の展開

- ・個人単位の社会保障が求められる
- ・企業に頼らない社会保障の充実が必要
- ・地方分権を進め、数人の政治家のカリスマ的な力量に頼るのではなく、NPO等と連携して、様々な方面で持続的なセーフティネットを構築すべき

(図1) 福祉国家3つのモデル

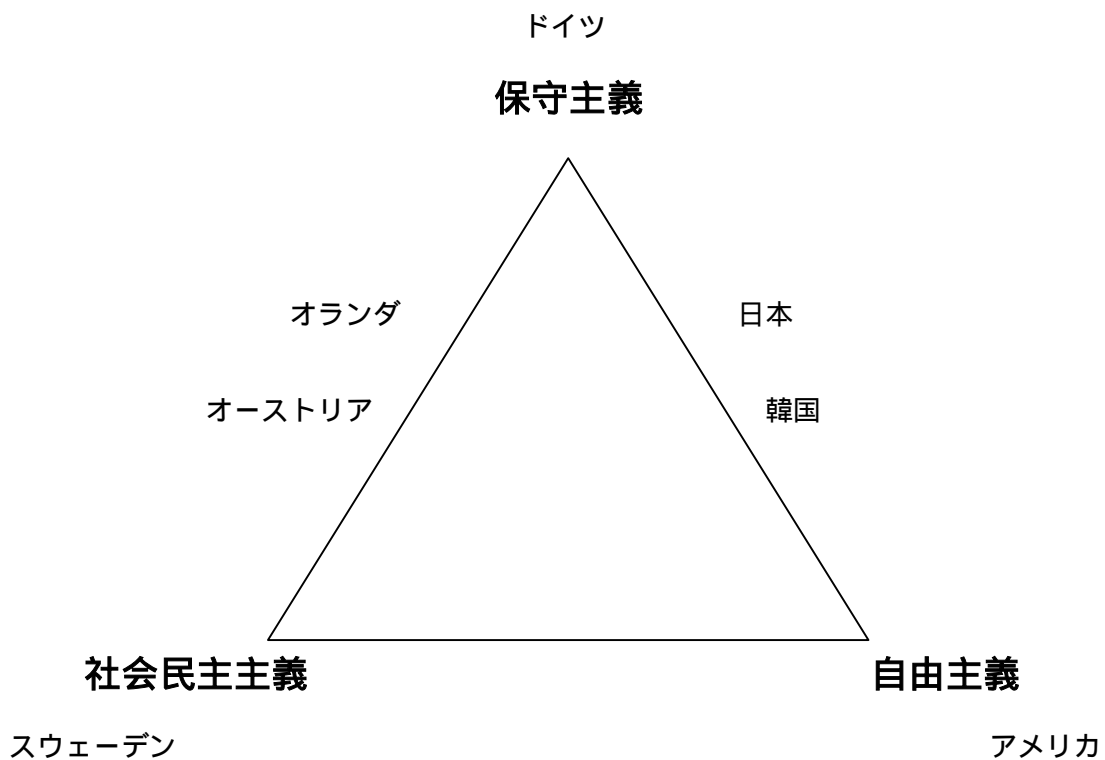
レジーム	脱商品化	階層化	脱家族化	重要な社会セクター
自由主義	低	高	中	市場
保守主義	高	高	低	家族
社会民主主義	高	低	高	政府

[注] 脱商品化：人々が市場に依拠することなく生活を維持できる程度

階層化：諸プログラムの垂直的格差

脱家族化：人々が家族のあるいは婚姻的相互関係から独立に経済的資源を活用できる程度

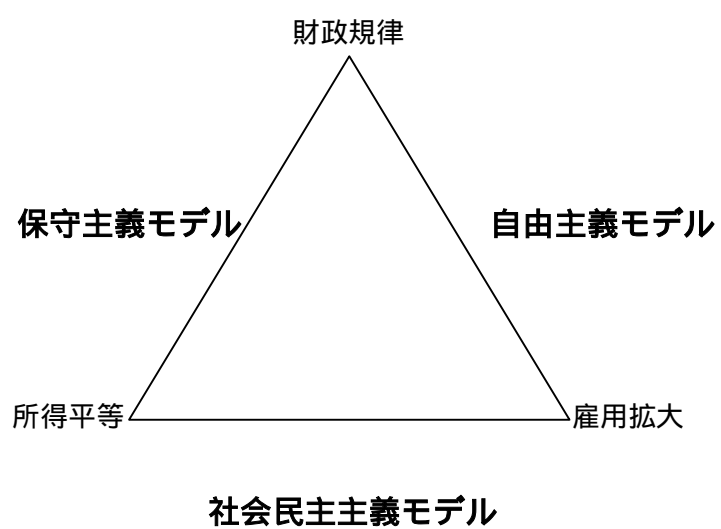
(図2) 各国の分類



出典：『比較政治経済学』

図3 日本の社会保障の歴史

図4 サービス経済におけるモデルごとの対応の変化



出典：『比較政治経済学』

6.おわりに

近年、若者の雇用が減少し、企業内での世代交代の必要性が叫ばれているが、この議論には高齢者の既得権益等の問題と同時に、現代のグローバル化時代において、日本の社会保障の限界が露呈したゆえの問題であることがわかり、新たな発見となった。今後は、事象を並べるだけでなく、1つの事象をさらに深掘して発表できるようにしたい。

参考文献

- 新川敏光 2004 『比較政治経済学』有斐閣アルマ
- 駒崎弘樹 2007 『社会を変えるを仕事にする』 英治出版
- 橘木俊詔 2004 『リスク社会を生きる』 岩波書店
- 橘木俊詔 2009 『貧困を救うのは、社会保障改革か、ベーシックインカムか』
人文書院
- 広井良典 1999 『日本の社会保障』 岩波書店
- 宮本太郎 2008 『福祉政治』 有斐閣
- 宮本太郎 2009 『生活保障』 岩波新書